地域づくり表彰

快生館（かいせいかん）（福岡県古賀市（こがし））

湯けむりとビジネスでつなぐ二地域

株式会社 SALT
代表取締役
すが　だいすけ
須賀　大介



１．古賀市の概要

古賀市は福岡県の北部に位置し、海や山の豊かな自然に恵まれながら、九州最大の都市・福岡市に近接しています。市内にはJRの駅が3つあり、JR古賀駅からJR博多駅へは約20分と交通の利便性が高いです。江戸時代には唐津街道の宿場「青柳宿」が置かれるなど、古くから交通の要衝として栄えてきました。



古賀海岸からの夕陽

【薬王寺温泉地区の概要】

薬王寺温泉地区は、福岡県古賀市の南東部、犬鳴山系のふもとに位置する静かな温泉郷です。福岡市内から車で約40分程度というアクセスの良さから、「博多の奥座敷」とも呼ばれています。

豊かな自然に囲まれた山あいの環境が魅力で、四季折々の風景を楽しみながら湯あみを満喫できます。



薬王寺温泉地区

２．団体の概要

薬王寺温泉地区にある「快生館」は、歴史ある温泉旅館を宿泊できるワークスペースに再生した古賀市の公民連携の取組です。運営は公募により株式会社SALTが担っています。「快く生きる、快く働く」をテーマに、温泉という地域資源とインキュベーション（新ビジネス支援）機能を融合。都市部の人材や企業を惹きつけ、ワーケーション利用の促進や関係人口の拡大による地域活性化をめざしています。



快生館のコワーキングスペース

３．活動開始の背景・経緯

事の発端は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でした。100年の歴史を持つ旅館「快生館」は、令和2年5月に旅館部が休業。古賀市が誇る地域資源である温泉そのものの存続が危ぶまれました。「快生館」オーナーから市へ活用相談が寄せられたことを受け、市はこの重要な地域資源の保護を決意。同時に、人口減少やテレワーク浸透といった社会変化を、新たな人の流れを創出し持続可能な都市を形成する「チャンス」と捉えました。単なる再開ではなく、時代のニーズに即した新しい価値を持つ場所への再生を決断。その核となったのは、「温泉」の魅力と「インキュベーション」機能を掛け合わせ、多様な人材が集い交流する「共創」の場を創り出すというアイデアでした。国の交付金も活用しつつ施設を改修。公募で株式会社SALTを運営事業者に選定し、令和3年10月より公民連携による運営がスタートしました。

４．活動の内容

【温泉×ワークプレイスの拠点運営】

「快生館」は、天然温泉付きのシェアオフィスとして、コワーキングスペースやサテライトオフィスを提供しています。起業やテレワーカー育成のプログラム、家賃補助制度まで幅広いサポート体制を構築。二拠点居住のワークプレイスとして機能しています。



温泉入浴：足湯研修

【地域課題を価値転換】

快生館の取り組みの中でも特に独創的なのが、地域の深刻な課題であった「有害鳥獣問題」を「資源」として捉え直した点です。

運営スタッフ自らが「わな猟師」の免許を取得し、古賀市の有害鳥獣駆除隊員として活動することから始まりました。この活動を核に、深刻な地域課題を都市部の人々を惹きつける高付加価値な体験型観光商品へと昇華させたのが、「狩猟体験ワーケーション」です。



狩猟体験ワーケーション

プログラムのテーマは「命と向き合う」。参加者はワークスペースでの仕事の合間に、座学から始まり、罠の設置、捕獲、そして解体、試食（ジビエ活用）までの一連の流れを体験します。これは、単なるジビエの消費ではなく、「食」や「自然との共生」、そして「命」や「地域課題」について深く学べる唯一無二の体験として、参加者から高い満足度を得ています。従来は廃棄されていた捕獲鳥獣を、学びと体験の「地域資源」として活用することに成功。地域課題の解決と、都市部からの関係人口創出という経済活動を両立させる先進的なモデルとなっています。また、体験を通じて狩猟へのハードルを下げ、将来の担い手育成にも貢献しています。



中学校特別授業（狩猟×道徳×家庭科）

【地域密着型コミュニティの形成】

地域交流の核として、代表的なイベントが「鹿の湯酒まつり」です。毎年春に開催し、毎回約400名が来場する人気イベントとなっています。このイベントは、地元の酒蔵、飲食店、農業団体など、古賀市で活躍する事業者と強固に連携して開催されます。

内容は、県内人気酒蔵の限定酒販売やクラフトビール販売、近隣飲食店によるマルシェなど多岐にわたります。単にお酒を楽しむだけでなく、地域課題や社会問題、まちづくりに関するトークセッションも同時に行い、社会的貢献度も高い活動となっています。



出店企業による共同商品開発

この取り組みは、快生館の利用者（都市部の人材）と地域事業者・住民が自然な形で交流し、コミュニティに溶け込めるソフトな環境を整備する上で重要な役割を担っています。結果として、地域ブランドの向上、地域産品の販路拡大、そして地域内外からの経済交流と消費の促進に大きく貢献しています。



鹿の湯酒まつり

5．創意工夫

本取組の最大の工夫は、快生館を単にそれ自体が利益を上げる「稼ぐ拠点」として完結させるのではなく、来訪者の活力や消費を地域全体に波及させる「推進力」として戦略的にデザインした点にあります。

具体的には、施設内での飲食サービスをあえて限定しました。これにより、来訪者や宿泊者は、食事や買い物のために自然と館外へ出て、近隣の飲食店や商店を利用することになります。この「館外での消費を促す運営方針」が、快生館を起点とした新たな「地域内経済循環」を意図的に創出しました。

その結果、一つの拠点の再生がエリア全体の経済地図を塗り替えるほどのインパクトを与え、快生館の運営開始後、近隣にオートキャンプ場や観光農園、飲食店が新たにオープンするなど、新たな民間投資を誘発する好循環が生まれています。



新規開業したオートキャンプ場

6．成果

【新たなビジネス創出と雇用拡大】

開業から4年で累計30の事業者を誘致しました。また快生館への入居を機に3社が古賀市で法人を設立しました。また、進出企業によるインターンシップ開催やDX推進プロジェクトなどを通じ、市内在住者の雇用機会創出や所得向上にも貢献しています。

【関係人口の拡大と都市ブランド向上】

「親子参加型移住体験プログラム」をきっかけに2組の家族が古賀市へ移住を決めるなど、関係人口から移住への流れも生まれています。

多数のメディアで取り上げられたほか、自治体や企業など国内外からの視察も多数受け入れており、休業した温泉旅館の再生モデルとして古賀市の先進的なイメージ向上に貢献しています。



30か国以上の国からのノマドワーカー

7．今後の展望

快生館の次なるステージは、この成功を持続可能なものにすること、すなわち「民間自走化」の実現にあります。これは、現在の市の委託事業という形から、古賀市や地域事業者との連携をこれまで以上に深化させた、新たな協働の段階へと移行することを意味します。

快生館は、二地域居住者やデジタルノマド、進出企業を惹きつける強力な磁力を持つプラットフォームとして、その誘致と定着をさらに加速させます。この好循環が地域に新たなイノベーションの種を蒔き、新たな事業創出と既存産業の活性化を支え、関係人口から移住への確かな流れを生み出していきます。

そして私たちの最終的なゴールは、この「快生館モデル」を、（他の地域でも応用可能な、）遊休資産活用の先進事例として全国に誇れるプロトタイプへと昇華させること。将来的にはこの成功モデルを市全域へと展開し、古賀市全土を「挑戦が生まれるまち」へと変革していくことこそが、最大の目標です。